

血友病患者の筋力と QOL

前回の本大会で血友病患者において年齢と血友病性関節症の重症度が QOL と負の相関を示し、HCV 感染者の QOL が低いことを報告した。産業医科大学病院血友病センターでは受診時に膝屈伸の筋力測定を行っており、血友病患者の筋力と ADL や QOL との関係を調査したので報告する。

【調査期間】平成 21 年 12 月から平成 24 年 12 月

【対象】産業医科大学病院血友病センターの総合外来を受診し協力の得られた血友病患者 39 人

【調査項目】血友病のタイプおよび重症度、過去 1 年間の出血回数、インヒビターの有無、定期補充、感染症（HCV、HIV）、Barthel Index(BI)、Franchay Activities Index(FAI)、Satisfaction of Daily Life(SDL)、SF36、関節症の重症度（X 線画像による判定）、膝屈伸筋力（等速性）

【結果】39 人中 13 人は関節の状態が悪く、2 人は受診時に関節出血がみられ筋力測定ができなかった。筋力は同年代の標準に比べ伸展 78.0%、屈曲 77.9%であり、標準を超えた者は 17%のみであった。筋力とは関節症および SF36 の身体機能に相関がみられた。筋力測定ができなかった群はできた群よりも高齢で関節症がより重度であり、BI・FAI・SDL・SF36(PCS、身体機能)が低かった。

【まとめ】血友病患者では下肢の筋力低下がみられるが、筋力と QOL には強い相関はみられなかった。一方、筋力測定ができない患者においては ADL および QOL が低下しており、筋力は測定できた患者よりも低下していることが予測された。